

なかよし・けんこう・どいよく

天見小校長室だより 夏休み号

人の温かみを感じられる学校 みんなで笑顔と元気を作り出せる学校

令和6年7月19日

天見小学校

梅雨が明ける日＝夏の始まり

子どものころ、「梅雨が明けました。」この言葉を聞くと、なんだかもものすごくうれしかったのを覚えています。毎年この言葉が早く聞きたかったのはなぜだったのでしょうか。外で遊べる日が増えるからでしょうか。今となっては、理由は覚えていませんが、今でも梅雨明けの日は、「夏が来る。」とわくわくした気持ちになります。



そのころ、私は、毎日のように、外で遊んでいました。外遊びは、今考えると、豪快でした。友だちと、どれだけ高いところから飛び降りれるか競争をしたり、林の中に入って探険ごっこ、自転車に両手ばなしで爆走、今では考えられないことをしていました。膝にはそこら中バンドエイドが貼ってありましたが、よく大けがせず済んだことと思います。公園でのお気に入りの遊具は、遠心力で体が洗濯物のように宙に浮く遊具でした。やがてこの遊具は、危険遊具として全ての公園からなくなってしまいました。



夕方は、家の近所の子どもたちが年齢関係なく集まってきて、ドッジボールしたり鬼ごっこしたり・・・誰かのお母さんの「ご飯よ。」という声が聞こえるまで、遊んでいました。昭和のまだのんびりした時代の話です。「縦割り活動」という言葉はなくても自然と「まち」の中に大きい子が小さい子の面倒を見る・・・そういう風潮があった時代でした。

おもちゃもたくさん買ってもらえない時代でもありました。当時流行していた「リカちゃんハウス」を私は買ってもらえず、あまりに「ハウス」が欲しかったので、「だったら、自分でお部屋を作ろう。」と箱を並べたり段々になっているお菓子の仕切り板を階段代わりに使ったりして、2階建てのお家を作ってお人形遊びもしました。できた「京子ちゃんハウス」は、部屋中を使っているわけですから、リカちゃんハウスより大きく、今思うと、想像力と創造力を鍛えることができたのでは・・・なんて思います。時間の流れが緩やかだったからできたことです。



しかし、ゆったりと時間を過ごした中で得た体力・創造力などは、自分がやりたいと思うことのためにやっていることで、まさしく自主性を伴っていて、やらされている苦痛感も何もなかったように思います。鉄棒・のぼり棒・雲梯・縄跳び・・・「できるようにになりたい。」みんな同じ理由で練習を何度も何度もしました。

今の時代、若者たちは、流れる情報を2倍速・3倍速で聞いた方が頭の中に情報が入ってくるそうですね。時間の流れが早く、人間の耳もそれに対応できるようになったということでしょうか。子どもたちが活躍する時代にはもっと時間の流れが速くなっているかもしれません。

夏休みを楽しみにしている子どもたち。それはこのテンポの速い時代の毎日を頑張っている自分へのご褒美で、知らず知らずのうちに、ゆっくりとすごせる時間を楽しめること



にも、有意義を感じているのかもしれませんが。生活のリズムを崩さないことはとても大事ですが、大人時間を中心に子どもに忙しさを与えるのではなく、休日などはできるだけ子ども時間を大切にされてみるのも、きっと夏休みのいい思い出の一つになるのではないかと思います。何もすることがなく暇な時間ができた時にこそ、心に余裕も生まれ、いろんな楽しい会話が生まれたり、「なんかやってみようかな。」という気持ちが生まれるのではないのでしょうか。

どうぞ、ご家族みなさんにとって、親子の有意義なコミュニケーションを楽しめる夏休みをお送りください。心の余裕から出てくる会話を大切に、「44日間の長い休みが、ゆったりといい夏休みだったよ。」とお話しくださる9月を楽しみにお待ちしております。

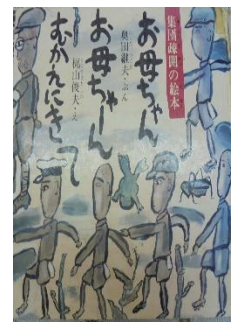


平和教育 79年前まで日本にあった戦争

8月6日、8月9日、8月15日・・・私たちが子どものころは「平和学習の日」と言って登校日になっていました。原爆が落とされた日、終戦になった日に、「戦争の無意味さを考え、もう二度と戦争を起こさないようにしよう。」ということを考える日でした。

最近では、平和登校日を設けることで、熱中症やら安全面のリスクが高くなり、だんだん設けられなくなってきました。テレビでもあまり第二次世界大戦について放映されなくなってきました。子どもたちに国語で、戦争の時代の物語を読もうとすると、その時代の背景から順に話さないと、戦争時の様子が想像もつかなくなってしまいました。実際に戦争を体験された方も少なくなりました。しかし、戦争はさらに進化を遂げて私たちの目の前に現れています。いつの時代になっても、戦争がなくなるということがなかなか実現しないのです。昨年度には実際にウクライナから避難されてきたナターシャさんから話を聞かせていただきました。戦争がひとたび起こると、当たり前にあると感じているものすべてなくなってしまうという恐怖を知り、だからこそ戦争が起きないように願うばかりです。

子どもたちにも、昔、日本でも戦争があって、どんなことが起きたのかということを知ってほしいと思いました。本当は、空襲の話や原爆の話をしたのですが、素地があまりにもなく、刺激だけが強くなって、真意が伝わらないのではと思います。図書室で見つけた一冊の絵本を読むことから平和教育を始めさせてもらっています。その絵本は、集団疎開をした男の子の生活を通して戦争のむごさを語った本です。はじめは集団疎開に行くことが勇敢でかっこいいと思いながら、友人たちと大阪から島根まで行きますが、食べ物のひもじさや、ゆったり過ごせる場所（家庭）がないしんどさ、弱肉強食の世界でのいじめ、父の戦死、母に会いたいという悲しい結末を迎えます。亡くなってしまった母に、「お母ちゃん、むかえにきて。」という最後の言葉では、本当にジーンとし、戦争のむごさ、どうしようもない悲しさを覚えずにはいられませんでした。



キックスの図書館にもあるのではないかと思います。もし、行かれることがありましたら、ぜひ手に取って読んでみてください。来年は戦争が終わって80年目を迎えます。

世界で、戦争が起こっているニュースをたびたび見るようになりました。

我々は、原爆を経験した唯一の民族として、「戦争はしてはいけない。戦争で何も解決しない。みんなが平和に過ごせる方法を考えていきたい。」と思います。